

サギタリウスチャレンジ チャレンジ部門

結果報告書

タイトル	今サンゴが危ない。～幼い頃受けた感動を日本中に～
代表者	経営学部 杉原 隆仁
企画概要	幼い頃に感動を受けたサンゴ礁が今、白骨化している問題が深刻となっていた。そこで、海を愛する京都産業大学の学生が立ち上がった。俺たちが、私たちがサンゴを復活させるのだ。そういう強い気持ちを持ちサンゴの移植に挑んだ。そのサンゴ移植はできるだけ私達の手で移植しサンゴの温暖化の影響で北上したサンゴが長く生き延びれるようにした。
結果報告	和歌山県白浜町臨海エリアで、大掛かりなサンゴ移植は2回、計30本を移植した。当初は小さいサンゴを100本植える予定であったが人員的要因から大きいサイズのサンゴを植える事に変更。私達の活動は主に水中になるので、和歌山の海には20回、福井の海には5回、琵琶湖には5回、水に慣れるため時間があれば遠征にいった。特に琵琶湖では波がないものの、浮力が海に比べて少ない為にとてもよい練習になった。海は波や流れがあるため近場の福井県でも練習を行った。ではなぜ和歌山ではないかという福井が和歌山に比べて圧倒的に近いからだ。サンゴを植えるという活動は成功したが、サンゴが岩に定着という部分では一年後にならなければわからない。実際は一年たって岩に定着しているサンゴは全体の三分の一位だと思う。しかし残った三分の一は産卵し、他のエリアに繁殖していく予定である。
感想	サンゴの移植・養殖という大きなプロジェクトに挑戦した。サンゴの現状が危ないという事から、どうにかしたいという気持ちが強く、行動に移した。しかし右も左もわからない状態で挑戦した為、多くの問題に遭遇したが、持ち前の行動力と熱い気持ちで乗り切った。このサンゴの移植を通して多くの事を学び、大きく成長した事が今後の人生に必ず生きてくると考える。サンゴの移植自体は予定していたのよりも規模が小さくなってしまったが、規模で評価されるものではないと考えている。確かにサンゴが海一面に広がるのが私たちの幸せであるが、活動を通して以後、世間が少しでもサンゴの事を考えてくれる事が私たちの最大の幸せである。また、私たちが植えたサンゴが10年後大きくなっていたら、映画化かサンゴの事についての本でも書きたいと考えている。